

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 22 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531067

研究課題名(和文)メキシコにおける多文化共生社会構築に向けた教員の役割に関する研究

研究課題名(英文)Research on Roles of Teachers for the Multicultural Coexistence Society in Mexico

研究代表者

青木 利夫 (Aoki, Toshio)

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：40304365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、メキシコ国立図書館などの関係機関において、同国の「多文化教育」政策の変遷、農村教師の養成や活動に関する文献・資料の収集をおこなった。収集した文献・資料を分析し、先住民文化の多様性にもとづいた教育政策の策定過程を検討した。また、先住民言語とスペイン語の両方を話す二言語教師をはじめとする教師が、子どもたちに対する教育だけでなく、先住民の文化や権利の尊重、町の活性化など地域社会の発展に向けた政治的、経済的、社会的な諸活動において指導的な役割を果たしてきたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The present study examined an extensive amount of documents collected from research centers including the National Library in order to investigate multicultural education policies, teacher education, and educators' active endeavors in the society of Mexico. In particular, the focus of this research was on the chronological changes in the policies and teacher contribution to the local communities. The major findings were that the bilingual teachers, who were fluent in both indigenous languages and Spanish, have played leading roles not only in educating children, but also in promoting the cultures and rights of indigenous people along with revitalizing and developing regional areas.

研究分野：メキシコ教育社会史

 キーワード：メキシコ 多文化教育 多文化主義 農村教師 農村教育 先住民 二言語文化間教育 インターカル
 チュラル教育

1. 研究開始当初の背景

20世紀前半のメキシコにおいては、先住民系住民が多く居住する農村地域への学校教育が急速に拡大していく。そのおもな目的は、経済的、社会的、文化的に「遅れている」とされた農村地域に教育を普及することによって農村社会を発展させるとともに、近代的な知識や愛国心をもった国民を育成して国民統合を成し遂げるといったことであった。しかしながら、そうした農村教育に対しては、20世紀半ば以降、先住民の文化や価値を「遅れた」ものとして措定し、それを考慮しない同化・統合主義的政策として批判が出されるようになった。そして、20世紀後半には、複数の先住民文化がメキシコの文化的豊かさを支える基盤をなすという「複数文化主義」が国家の理念となっていく。教育政策においては、スペイン語教育に代表される統合主義的な政策が見直され、「二文化二言語教育」のちに「二言語文化間教育」が導入される。すなわち、先住民の言語や文化を尊重した教育へと転換がはかられたのである。

20世紀末から21世紀においては、「複数文化主義」にもとづく国家統合という理念のもと、先住民文化を尊重する教育政策は、初等教育から高等教育のレベルにいたるまでよりいっそう拡大していく。こうした国家理念および教育政策の変化の背景には、さまざまな要因が考えられる。たとえば、メキシコ国内において、先住民がみずからの権利を主張するようになり、全国規模での組織化が進んだことがあげられる。また、20世紀後半に進む経済のグローバル化によって貧富の格差が拡大すると、それに対する批判が高まるとともに、先住民などのマイノリティの権利を尊重しようとする国際的な気運が高まる。それと同時に、財政危機を背景に経済や社会福祉などの分野において国家の関与が縮小するなかで、先住民の自主管理が進むようになったことなどが考えられる。

このようなメキシコ内外の政治的、経済的、社会的状況が急速に変化していくなかで、農村地域においても、先住民自身がみずからの生活や文化、あるいは権利を維持し、さらに拡大していくためにさまざまな活動を展開してきた。そうした地域の活動においては、教育を受けた教師や教育関係者が、子どもの教育を担うだけでなく、地域の発展のために指導的な役割をはたしている場合が数多くあった。そこで、農村地域の現場において活動する農村教師がどのように誕生し、そして養成されてきたのか、そして、教師が、多文化共生社会の構築をめざすなかで、どのような役割を担い、それを果たしてきたのか、より詳細に検討することが必要であるという認識にいたった。

2. 研究の目的

上記背景のもと、本研究においては、3年間の研究期間内において、以下の点を明らか

にすることを目的とした。

(1) 日本におけるメキシコの教員養成に関する研究蓄積が少ないことを踏まえ、20世紀のメキシコの教員養成制度全体の歴史を整理したうえで、とくに農村教師養成制度の歴史的な変遷を明らかにする。

(2) 20世紀当初より、農村教師には、先住民言語にかんする能力、都市とは異なる農村地域社会にかんする特別な知識、同地域の発展のための戦略など、都市部の教員とは異なる特殊な技能が求められてきた。教育当局は、そうした知識や能力をどのように養成しようとしたのか、農村教師養成課程の理念、教育計画、カリキュラムなどの分析を通じて明らかにする。

(3) 1960年代から1970年代にかけて、先住民言語とスペイン語とを話す二言語教師の組織化がおこなわれ、全国的な専門家団体が形成されていく。そうした組織化は、どのような目的で、どのような過程を経ておこなわれていったのか、その歴史を明らかにし、その意義と問題点を検討する。

(4) 1970年代以降、先住民教育専門の課程をもつようになった高等教育機関に焦点をあて、どのような過程を経て先住民教育課程が導入され、どのような教育がおこなわれているのかを検討する。

(5) メキシコの「二言語文化間教育」の導入に影響を与えた国際機関のメキシコにおける影響、とりわけ農村教師養成に対する影響を明らかにする。

(6) 農村教師などの農村地域社会の指導者養成を目的に、近年、メキシコ各地に設置が進められている高等教育機関「インターカルチュラル大学」の設置にいたる経緯、教育の実施状況などを検討し、その意義と問題点を検討する。

(7) 「二文化二言語教育」から「二言語文化間教育」へと教育政策が転換していくなかで、農村教師がそれにどのような影響を与え、逆にどのような影響を受けたのかを明らかにする。

以上のような視点から研究を進め、それを踏まえて、多文化共生社会の構築に向けて教師がどのような役割を果たしうるのか、その可能性と問題点を探ることを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、メキシコの教員養成に関連する文献・資料の調査および収集とその分析を中心に進められた。文献・資料の調査・収集は、インターネットのほか、メキシコ国立図書館など同国の関係機関において、以下の視点からおこなわれた。

(1) 20世紀における教員養成のための制度や政策、教員養成機関にかかわる先行研究、基礎的な文献・資料・統計。とくに、農村教師養成にかんする資料に焦点をあてる。

(2) 農村教師など教育関係に従事したもの

の報告書、自叙伝、回想録、日記など。

(3) 教員養成のための教育・訓練にかんする会議などの記録。

(4) 高等教育機関における先住民教育の専門課程にかんする文献・資料。

(5) 農村教師の組織化(専門家組織や教員組合など)にかんする文献・資料。

(6) 農村教育関係の雑誌や新聞記事。

(7) 国立先住民研究所にかんする文献・資料。

(8) ラテンアメリカの教育にかかわる国際機関にかんする文献・資料。

(9) 「二言語二文化教育」、「二言語文化間教育」にかんする文献・資料。

(10) 地方の師範学校にかんする文献・資料。

(11) インターカルチュラル大学にかんする資料。

以上のような視点から収集した文献・資料をすでに入手済みのものとあわせて、以下の視点から分析した。

(1) 教員養成にかかわる法律がいつ制定され、どのような変遷をたどったのか。とくに農村教師養成にかんするものに焦点をあてる。

(2) どのような教員養成機関が、いつ、どこに、どのようなかたちで設置されたのか。そして、その教育理念、教育内容、カリキュラムがどのようなものであったのか。

(3) どのような人びと(性別、年齢、階層など)が農村教師をめざしたのか。そして、教師となった人びとは、どのような状況のもと、どのような目的をもって教師となったのか。

(4) メキシコ全国の農村教師がどのような過程で組織化され、どのような主張や運動を展開したのか。

(5) 「二文化二言語教育」から「二言語文化間教育」へ教育政策が転換する過程のなかで、農村教師がどのような影響を与えていたのか、あるいはそうした政策の変化によって農村教師養成のしくみがどのような影響を受けたのか。

(6) 国際機関は、メキシコの農村教師養成政策にどのような影響を与えたのか。

(7) インターカルチュラル大学において、どのような理念やカリキュラムのもと教育がおこなわれているのか。同大学には、どのような学生が集まるのか。

おもに以上のような視点から、収集した資料を分析するという方法によって、研究を遂行した。

4. 研究成果

インターネットおよびメキシコの関係機関における文献・資料の調査・収集により、日本においては数少ないメキシコの「多文化教育」ならびにそれを担う教員に関する文献・資料を蓄積することができた。そして、収集した資料をもとに、20世紀後半から現在

にいたるメキシコの「多文化教育」の変遷とともに、それを担ってきた教員の活動を検討した。その結果、以下のような結論を得るにいった。

(1) 1990年代後半の「二文化二言語教育」から「二言語文化間教育」への転換の背景には、スペイン語を共通語とする支配文化と先住民文化との関係のありかたに対する意識の変化があった。それは、「多文化主義」が複数の文化の共存を認めるだけの理念であり、文化間に存在する政治的、経済的、社会的格差を解消することができないとする批判であった。「文化間主義」といわれる理念は、支配文化と先住民文化との格差を認めたくて、それをいかに克服するかという問題意識にもとづいており、「二言語文化間教育」はそうした意識の変化を背景に導入された。

(2) そうした意識の変化にとまなう「文化間主義」であったが、経済のグローバル化、市場化を積極的に推進しようとする国家は、先住民族に対して一定の限られた権利を承認するものの、みずからの支配権を確保するために「文化間主義」を取り込もうとした。それゆえに、「二言語文化間教育」は、先住民族と国家との政治的、経済的、社会的、文化的な「ヘゲモニー」をめぐるかけひきの場となった。

(3) 「二言語文化間教育」は、複数文化の格差なき共生をめざして導入され拡大していくが、実際の教育の現場においては、それを実践するための具体的な方法や教材がかならずしも十分に整っていたわけではなく、また、この特殊な教育を実践するための訓練を受けた教員も限られており、さまざまな問題を抱えている。

(4) しかしながら、先住民の文化や権利の尊重を訴えて、それをもとに町の一体感を強め、あるいは町の活性化をはかろうとする政治的、経済的、文化的運動も各地で起こっており、20世紀前半からはじまる農村教育のなかで教育を受けてきた教師たちが、教育者として、あるいは村役などの地方行政の幹部として、そうした運動を支える中心的な役割をはたしてきた。

(5) その一方で、教育を受けた教師が、地域の指導者となることによって、特権者として地域を支配する場合もあり、教育が地域における格差を生みだし、それが固定化されることにもなった。

以上の研究成果は、以下の通り、学術論文および単著・共編著として発表するとともに、関連する研究団体において口頭で報告した。ただし、国際機関の影響、地方の高等教育機関における教員養成などについては、十分な分析にはいたらず、今後の課題となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

1. 青木利夫, 地域の指導者としての教師の役割, 欧米文化研究, 第21巻, 査読有, 2014, pp.47-63

〔学会発表〕(計1件)

1. 青木利夫, メキシコのインターカルチュラル大学, 比較発達社会史研究会, 2012年10月20日, 同志社大学(京都府・京都市)

〔図書〕(計3件)

1. 青木利夫, 柿内真紀, 関啓子, 木下江美, 三浦綾希子, 呉永鎬, ギタウ(藤田)明香, 太田美幸, 見原礼子, 高尾隆, 金子晃之, 神谷純子, 東信堂, 日常生活に織り込まれた発達文化, 2015, 264p

2. 青木利夫, 溪水社, 20世紀メキシコにおける農村教育の社会史, 2015, 266p

3. 榎原茂, 長田浩彰, 松井康浩, 寺田由美, 青木利夫, 久木尚志, 長井伸仁, ミネルヴァ書房, 個人の語りがひらく歴史, 2014, 282p

6. 研究組織

(1)研究代表者

青木 利夫 (AOKI TOSHIO)

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号: 40304365